

新入荷商品のご紹介



読谷山花織 名古屋帯

308000円

特集でも取り上げた読谷山花織の名古屋帯。手織りならではの風合いや質感、そして沖繩に伝わる伝統の柄は後世に伝えていきたい魅力的な逸品です。



花しおり
本螺鈿かんざし

17600円

本螺鈿の自然で高級感のある色合いが魅力的な花しおりかんざし。ワンランク上のコーデイネイトに花を添えてくれます。



かわちや
オリジナル草履

30000円

春のお出かけには草履をこだわって自分らしいこだわりの足を演出。台の天が茶系、巻きの部分はさわやかな白を合わせ、あか抜けたすっきりとした印象に。



印伝
エトルス 財布

36300円

縁のつながりや円満を表す吉祥文様の七宝繋ぎ。そこに生命力あふれる植物が生きて生きと浮かび上がる。豊かな未来へどこまでも伸び行く力を意匠化した印伝のブランドです。

趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2020年4月号

ごあいさつ



東京オリンピックの延期が決まり、前代未聞の事態が続いています。なかなか前向きなニュースの少ない今日この頃ですが、心機一転、気分だけでも春らしいウキウキと毎日過ごしたいものですね。

5月の連休

5月5日(火) 6日(水)

特集 読谷山花織の歴史



沖繩には多様な織と染の技術が存在しています。紅型をはじめ琉球絣、芭蕉布、宮古上布、八重山上布、久米島紬、そして最も特徴的な与那国花織、知花花織、首里花織、南風原花織、読谷山花織など。これらの染織は中国の影響や琉球王朝の歴史と密接にかかわっていますが、現代でも、多くの技術が伝承されている数少ない地域が沖繩なのです。その中でも今回は、読谷山花織を掘り下げてみたいと思います。

読谷山花織の歴史は古く1400年代に、中国や東南アジア諸国との交易を通じて読谷山花織のルーツとなる絣や浮織の技法も伝来しました。

伝来した技法を元に琉球王府時代には読谷山花織として独自に織られ、受け継がれてきました。しかし、その染織技術は明治時代の中頃から時代の波に押され衰退しつつあり、沖繩戦争後は人々の記憶からすっかり忘れ去られ、「幻の花織」となっていました。このような約600年の歴史を誇る読谷山花織は、絶滅寸前となっていたのですが、1964年に読谷村の情熱ある有志によって約90年ぶりに「幻の花織」が復活しました。当初は愛好会から、読谷山花織事業協同組合の組織へと発展し、現在では沖繩県指定無形文化財、経済産業大臣指定伝統的工芸品として、全国に多く知られるようになりました。伝統に育まれた色彩や柄が手作りの温かさと共に現代に受け継がれています。



twitter、facebook、
アメブロやっています。

着物・和雑貨のかわちや
フェイスブックページ

<http://www.facebook.com/kawachiya888>

もっと着物を楽しもう！
かちゅうあんブログ

<http://ameblo.jp/kawachiya/>

日々、ブログを更新しています。
着物のこと、日常のこと、音楽のことなどつづっています。
チェックしてみてください。

呉服の河内屋

〒444-0521

愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子62

<http://www.gofuku-kawachiya.co.jp>

メール info@gofuku-kawachiya.co.jp

tel 0563-35-0039 fax 0563-35-3539